

# 視聴覚教育時報

No.750 2025年9月号

## contents

- ▽令和7年度 第1回文書理事会について
- ▽令和7年度の役員について
- ▽講師派遣事業 令和6年度 生涯学習視聴覚フォーラム（岐阜県）
- ▽講師派遣事業 令和6年度 群馬県教育メディア指導者養成講座（群馬県）
- ▽令和7年度 講師派遣事業について
- ▽令和7年度 全国公立視聴覚センター連絡協議会総会について
- ▽令和7年度全視連「視聴覚教育功労者」6名が決定
- ▽全国視聴覚教育連盟 功労者表彰を受賞して
- ▽視聴覚教育・放送教育全国大会合同大会 サイトがオープン（11月28日・29日）
- ▽令和7年度 視聴覚センター・ライブラリーの円滑な継続的事業推進のために（提言）  
構成案
- ▽えすけーぷ

---

### ▽令和7年度 第1回文書理事会について

既報のとおり、例年4月に開催の第1回常任理事会は、文書により実施しました。5月12日を期日として、下記議案についてすべて役員の方々にご承認いただきました。

常任理事会の承認を受けて、令和7年度の第1回理事会についても例年通り文書理事会をもって総会に代えることとし、各加盟団体理事宛に文書を5月23日付けで発送し、6月13日を期限として下記第1号議案～5号議案につ

いて、すべて承認をいただきました。

#### 【文書理事会により決定された事項】

- 第1号議案 令和6年度事業報告書（案）
- 第2号議案 令和6年度収支決算書（案）
- 第3号議案 令和7年度末で当連盟解散の件
- 第4号議案 令和7年度事業計画書（案）
- 第5号議案 令和7年度収支予算書（案）

## ▽令和7年度の役員について

全視連の役員の任期は令和6年度、7年度と2年間となっており、今年度の役員は前任者の異動にともない2名の方々に新たに就任いただくこととなりました。

令和7年度の役員は以下の通り。なおアンダーラインは新規に就任された方々です。

### 会長

- ・馬場祐次郎（元文部科学省生涯学習政策局社会教育官／全国体験活動ボランティア活動総合推進センター）

### 副会長

- ・鈴木 等（茨城県視聴覚教育振興会顧問）

- ・渡辺修司（新潟県立生涯学習推進センター次長）

### 常任理事

- ・戸村紀子（栃木県視聴覚教育連盟委員長）
- ・佐俣宏明（群馬県視聴覚ライブラリー連絡協議会会長）
- ・富士池長雄（埼玉県視聴覚教育連絡協議会会長）
- ・小安和美（千葉県視聴覚ライブラリー連絡協議会理事長）
- ・岡部守男（（一財）日本視聴覚教育協会顧問）

## ▽講師派遣事業 令和6年度 生涯学習視聴覚フォーラム（岐阜県）

令和6年度の全視連の講師派遣事業を活用して、全国視聴覚教育連盟の村上長彦専門委員長が標記研修会において講演を実施しました。

1. 主催 岐阜県社会教育視聴覚連絡協議会
2. 期日 令和6年12月1日（日）13:00～16:00
3. 会場 苗木交流センター
4. 参加者 県内の各地域視聴覚教育関係者・ライブラリー職員など約70名
5. 講師・テーマ

全国視聴覚教育連盟村上長彦専門委員長、テーマ 創立50周年記念事業基調講演会「視聴覚が担ってきた役割と今後の視聴覚の展望」

### 6. 実施内容

- ①開会式（主催者挨拶、来賓祝辞、来賓紹介）
  - ②創立50周年記念事業 基調講演会
  - ③表彰式
    - ・視聴覚教育功労者表彰
    - ・視聴覚作品コンクール表彰
- 岐阜県知事賞、岐阜県教育長賞、岐阜県社会



教育視聴覚連絡協議会長賞

- ④視聴覚作品コンクール入賞作品鑑賞会及び講評・総評  
講師：審査委員長・近藤良一氏（羽島市歴史民俗資料館・映画資料館）
- ⑤団体活動報告（東濃地区社会教育視聴覚連絡協議会）
- ⑥閉会式

## ▽講師派遣事業 令和6年度 群馬県教育メディア指導者養成講座（群馬県）

令和6年度の全視連の講師派遣事業を活用して、全視連講師の立見康彦氏（元群馬大学教育学

部大学院教育学科研究科客員教授）の講演が標記研修会において実施されました。



1. 日時 令和6年 12月 21日 (土) 9:00～12:00

2. 主催 群馬県視聴覚ライブラリー連絡協議会

3. 会場 群馬県生涯学習センター

4. 参加者 県内におけるICT教育を振興するための中核的な指導者14名

### 5. 講演

#### ①講義「視聴覚教育メディア総論」

「視聴覚メディアとは」という最初の問いかけで始まり、法令上の位置づけ、視聴覚教育の歴史や今後の展望、教育メディアの利用や管理運用、視聴覚ライブラリー・視聴覚センターの役割（センター見学も実施）について、幅広い内容の講義を頂きました。公民館職員、図書館職員、社会教育関係職員、保育士、ハートフルスクールサポートステーション※スタッフなど幅広い受講者がいましたが、それぞれの受講生に合わせた講義をして頂きました。

※障害のある方（ステーションスタッフ）が支援員の指導の下、施設的环境整備等の作業を通して就労に必要な知識や技術を習得しています。

#### ②講義「情報モラル・著作権・セキュリティ」

社会教育を進める上で必要となる知識を教えてくださいました。特に、著作権については、公民館や学校での具体例を挙げて、著作権の範囲内での使い方や違法な例を教えてくださいました。現代的な課題と併せて講義を頂きました。

#### ③講義・実習「16ミリ映写操作技術認定講座」

講師の指導の下、16ミリ映写機を実際に操作

していただきながら、操作方法と各部の名称を説明していただきました。操作方法を学んだ後、受講者は2グループに分かれ、実際の映写機操作の実習を行いました。全員が映写機に触れ、操作を行うことができました。最後に、フィルムが切れてしまった際の対処方法として、テープスプライサーを用いた補修方法を学び、全員が実習を終えました。

### 6. 所感

今回は、行政職員や学校の教員のほかに3名の高校生の受講もあり、若い方々が歴史あるものよさを学んでくださったことは、とてもよかったと思います。受講者のアンケートでは、講座の内容・構成や職務に役立つかどうかについても、100%の方が肯定的評価をしてくださいました。また、次のようなご意見をいただきました。

「レトロですが、とてもよくできていて、思いのほか、簡単に操作できることに驚きました。フィルム映画の味のある雰囲気は少しでも多くの方に知っていただくために、本日学んだことを生かしたい。」「今回は、たいへん学びのある内容の講座を開いていただきありがとうございます。」「たいへんおもしろい内容でした。認定証をもらったことを今後生かせるようにしたい。」

また、今回も、障害のある方（ステーションスタッフ）3名の受講がありました。映写操作やテープの補修作業では、受講生同士で交流しながら学び合う姿がたくさんありました。ステーションスタッフの方には、認定証を取得したことで、群馬県生涯学習センターで実施している出前なんでも講座「16ミリフィルム映画会」の運営に携わっていただく予定です。

立見先生は映写機や16ミリフィルムの映像といったものの価値や歴史について熟知しておられることと共に、生涯学習センターの役割についても深くご存じの方であり、巧みな話術で、すばらしい講義をしてくださいました。受講者全員に対して、とてもわかりやすくお話をしてくださり、一人ひとりにとって充実した研修になりました。

## ▽令和7年度 講師派遣事業について

本事業は、各加盟団体が実施する研究会・研修会に対して、“全視連指導協力者会議”の学識経験者の中から、または加盟団体が独自に選

定する講師を要請に応じて講師の派遣を行い、全視連が講師謝金を負担する事業です。

各加盟団体等が主催する研究会や生涯学習

メディア利用研修会等への講師派遣申請を 10 月 31 日まで受け付けています。

＜講師＞ (敬称略)

- ・伊藤敏朗 (映画監督、東京情報大学非常勤講師)
- ・坂井知志 (日本デジタルアーキビスト資格認定機構理事/岐阜女子大学特別客員教授)
- ・篠原文陽児 (東京学芸大学名誉教授)
- ・立見康彦 (元群馬大学教育学部大学院教育学

科研究科客員教授、元群馬県視聴覚センター課長、現群馬県退職校長会会長)

- ・平沢 茂 (文教大学名誉教授)
- ・吉田広毅 (関東学院大学副学長・国際文化学部教授)
- ・村上長彦 (全国視聴覚教育連盟専門委員長)
- ・丸山裕輔 (新潟県五泉市立村松小学校教諭/全国視聴覚教育連盟副専門委員長)

---

## ▽令和7年度 全国公立視聴覚センター連絡協議会総会について

全国公立視聴覚センター連絡協議会の今年度の総会について、6月27日付文書により、7月18日を総会指定日として、下記議案について文書により審議いただき、全センターより承認をいただきました。

第1号議案 令和6年度事業報告書(案)・収支決算報告書(案)

第2号議案 令和7年度末をもって当連絡協議会を解散する件

第3号議案 令和7年度事業計画書(案)・収支予算書(案)

第4号議案 役員選任(案)

＜事業計画＞

① 全国の公立視聴覚センター及び相当施設の事業・設備等の実態調査依頼送付(6月27日)

② 全国公立視聴覚センター連絡協議会総会(文書総会)(6月27日)

③ 第29回視聴覚教育総合全国大会(全国公立視聴覚センター研究協議会)(令和7年11月28日(金)・29日(土)開催)

今年度は全視連担当の生涯学習部会は実施しないが、今年度の全視連功労者表彰者をオンラインの全体会において氏名・所属などを発表する予定。

④ 今後の視聴覚センター・ライブラリーの在り方について(指針の作成)

全国視聴覚教育連盟の解散にともない、発足以来の歩みを振り返り、これまで文部省などによって提言されてきた視聴覚センター・ライブラリーの在り方について再確認するとともに、長年にわたって全視連の調査研究事業で提案されてきた内容をまとめる。そのうえで、解散後の視聴覚センター・ライブラリーが円滑に継続して事業を推進することができるような指針を示す。完成した指針はホームページに公開するとともに印刷し、加盟センターに発送する。

⑤ 全国公立視聴覚センター要覧(2025年度版)の刊行(10月)

＜全国公立視聴覚センター連絡協議会役員＞

幹事長 村上長彦氏(全国視聴覚教育連盟専門委員長)

副幹事長 白戸明子氏(青森県総合社会教育センター所長)

常任幹事 渡辺修司氏(新潟県立生涯学習推進センター次長)

常任幹事 酒井誠一氏(千葉県総合教育センター所長)

監事 大沼誠司氏(山形県北村山視聴覚教育センター所長)

## ▽令和7年度全視連「視聴覚教育功労者」6名が決定

各都道府県・指定都市教育委員会および各加盟団体の推薦により、令和7年度第28回全国視聴覚教育連盟「視聴覚教育功労者」が、7月15日付け発信の文書選考委員会による審議の結果、地域の社会教育等における視聴覚教育の推進に功績のあった6名の方々に定いたしました。本表彰は平成10年度に開始され、本年度で28回目を数え、今回の6名の決定により総数353名の方々が授与されたこととなります。

なお、表彰式は例年「視聴覚教育総合全国大会・放送教育研究会全国大会」にて執り行っていますが、令和7年11月に開催の同大会はオンライン開催となったため表彰式は執り行わないこととなりました（全国大会の全体会で各団体の功労者を発表します）。

### ■石山宏一氏（いしやま こういち）〈青森県〉

青森県総合社会教育センターの委嘱を3度（平成11・14・20年）受け、メディア利用教材企画委員として、「南部裂織」「小川原湖」「十和田湖を知ろう」の3作のマルチメディア郷土学習教材を作成。教材は県内の小中学校へも提供され、広く活用された。平成14年度から同20年度まで公立上北視聴覚ライブラリーIT事業の指導者講習会の講師として、地域で活躍する人たちや教職員のITスキルの向上に貢献した。令和5年度には、日本教育工学協会の全国大会を青森県で開催し、大会実行委員長を務め、県内外の教職員の指導力向上に貢献するなど、学校教育および社会教育の推進、生涯学習の振興に尽力した。

### ■金濱芳孝氏（かねはま よしたか）〈岩手県〉

昭和42年にNHK八戸放送局技術部に入局。退職後、映写ボランティア「シネマ友の会」に所属し、盛岡地区の各種団体・施設などで実施される映画会の運営を長期にわたり支援し、子供会や学校、老人施設等からの依頼に応じて各種映画会の運営を継続的に支援している。「フィルムだからこそ伝えられるものがある」という信念のもと上映している。16ミリ映写機操

作技術講習会での実技指導等、人材育成事業に携わるとともに、自らも常に貪欲に学び、自己研鑽に努めている。また、映写に関する種々の機器類に不具合が生じた場合等、専門の知識と技術で修理もこなすなど、視聴覚ライブラリーの運営に欠かせない人材である。

### ■瀬野千恵子氏（せの ちえこ）〈山形県〉

平成13年に読み聞かせボランティアサークル「八幡よみきかせ隊」を創立、代表に就任し、現在まで24年間活動している。酒田市内の保育園、小中学校、高齢者施設等で広く読み聞かせを行っている。平成14年に地元へ伝わる伝統文化や民話を題材にした方言による手作り紙芝居の制作を開始。完成した紙芝居は山形県自作視聴覚教材コンクール等で数々の賞を受賞し、高い評価を得ている。さらに、平成24年には子どもの読書活動を推進する活動が認められ、「子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）文部科学大臣表彰」を受賞するなど、視聴覚教育の進展のみならず社会教育活動の発展にも大きく貢献した。

### ■軍司幹光氏（ぐんじ まさみつ）〈茨城県〉

昭和44年に公立小学校に奉職。新採で視聴覚主任となり、以後3校続けて視聴覚主任となる。それらの経験を生かし、茨城大学教育学部附属小学校勤務時も視聴覚主任に就任し、県・郡研究発表会で講師を務め、視聴覚教育の指導者として、その振興・促進に努めた。退職後は、茨城県視聴覚教育振興会の事務局次長・事務局長に就任し、社会教育における視聴覚教育に本格的に取り組むようになった。事務局を辞した後も、アドバイザーとして外部から事務局の運営に協力し、視聴覚教育の振興に務めてきた。昨年、事務局長に再任され、これまでの経験を生かして事務局の運営に従事し、視聴覚教育振興のために尽力している。

### ■坂井幸一氏（さかい こういち）〈栃木県〉

民間企業在職中の平成7年に「うつのみや映写ボランティアの会」に入会、同29年に会長に就任し、現在まで30年間にわたり活動している。同会は16ミリ映写技術講習会を受講した者の集まりで、活動としては宇都宮市視聴覚ライブラリー主催の映画会のサポートはもと

より、地域の自治会・子供会・老人会での映画会の自主開催等を通して地域の社会教育に寄与している。また、栃木県立博物館で「うつのみや映写ボランティアによる名画鑑賞会」を毎月実施しており、多くの方々に喜ばれている。また、宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員として現在も視聴覚ライブラリーの活動をサポートしている。

#### ■豊田聡彦氏（とよだ としひこ）〈愛知県〉

昭和59年に公立小学校に奉職。昭和62年からの豊橋市視聴覚教育センター専門部員の

6年間では、視聴覚機器の活用について小中学校への支援だけでなく、視聴覚教育センター内の視聴覚機器の充実にも携わり、一般利用者の興味・関心を高めてきた。愛知県視聴覚教育研究協議会事務局員として、NHK名古屋放送局と協力しながら、視聴覚教育の推進に尽力した。現在は市の情報嘱託員として、小中学校や図書館、視聴覚教育センター等からの、視聴覚機器及びICTに関する問い合わせに親身になって対応し、本市の視聴覚教育を支えている。このように、視聴覚教育研究の指導・普及に尽力した功績はきわめて多大である。

### ▽全国視聴覚教育連盟 功労者表彰を受賞して

今年度の功労者表彰受賞者6名の方々の受賞の喜びの声を聞きしましたので、本欄にてご紹介いたします（青森県・石山宏一氏、岩手県・金濱芳孝氏、山形県・瀬野千恵子氏、茨城県・軍司幹光氏、栃木県・坂井幸一氏、愛知県・豊田聡彦氏）。

#### ●青森県・石山宏一氏

##### 「視聴覚教育と共に歩んだ道のり」

この度は、全国視聴覚教育連盟視聴覚教育功労者表彰という栄えある賞を賜り、心より感謝申し上げます。

私が視聴覚教育に携わるようになったきっかけは、平成元年、初めて赴任した小学校で、小学校教育研究会視聴覚部会の事務局長を務めていらした教頭先生から、お声掛けいただいたことでした。当時はまだOHPが各教室で利用されており、放送教育やビデオ教材の活用が視聴覚教育研究の中心的なテーマでした。私自身もビデオカメラや簡易編集機を使い、自作のビデオ教材を制作しました。拙いカ



ット編集ではありませんでしたが、子供たちが「おっ、すごい！」「分かりやすい！」と目を輝かせて歓声を上げていた様子は、今も鮮明に心に残っています。

その後、パソコンが普及し始めると、部会の仲間とともに授業におけるパソコンの効果的な活用や、マルチメディア教材の制作に取り組みました。この活動を通じて、平成11年、14年、20年には青森県総合社会教育センターから委嘱を受け、「南部裂織」「小川原湖」「十和田湖を知ろう」の3つのテーマで、マルチメディア教材を制作する機会をいただきました。作成した教材は、青森県内の多くの小中学校で広く活用していただきました。

また、近年では教育の情報化が進む中、教員の ICT 活用指導力向上を目的とした研修会を主催し、教員の資質向上や授業改善にも取り組んでまいりました。令和5年度には第49回全日本教育工学研究協議会全国大会を青森県で開催し、多くの方々とともに、子供たちの可能性を引き出す ICT 活用の在り方について意見を交わし、日々の授業の在り方を見直す貴重な機会となりました。次代を担う教員の資質向上に、僅かながらも貢献できたことを嬉しく思っております。

最後になりますが、今回の受賞は、同じ志を持つ諸先輩方や共に活動した皆様のご支援、ご協力があってこそと、深く感謝しております。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

### ●岩手県・金濱芳孝氏 「岩手県内視聴覚活動に参加して」



私は平成24年に職場を定年退職しました。その年、ある先輩の方から「ボランティア活動してみないか？」との誘いを受けたのが、きっかけでした。その5月に技術講習会を受講し、即活動に参加する事になったのです。当初は活動への興味も薄かったのですが、子供達の笑顔を見るたびに、力を入れるようになりました。

活動して数年後、ある保育園を訪れた時でした。「サンタさんは大いそがし」という作品のフィルム映写でした。終わった途端、4～5歳の園児がスクリーンに向かってスックと立ち上がり、ニコニコしながら拍手をしたのです。それにつられて仲間の園児達も先生までも立ち上がり拍手をしたのです。ビックリするやら素晴らしいと感激するやらで、それ以来の活動が現在まで続くエネルギーになっ



ていると思っています。

そして令和6年11月、岩手県地域視聴覚教育協議会連絡協議会主催の専任職員等研修会が開催され、県内各地から25名の参加者が集合し、中央からお招きした専門家による講義と実習が行なわれ、有意義な時を過ごすことが出来ました。その後ある老人会から機器の説明をして欲しいとの依頼をいただき、私は再び、講習会で使用したテキストを久し振りに開き、学び直しました。その中にあった映写機の歴史についても話す事にしました。

米国は大戦で兵士の慰安のために映写機を活用していたようです。戦後、日本での民主化を促進するため、文部省にその映写機1,300台を無償供与し「各地で民主化教育の促進に活用された」という歴史を知りました。敗戦と民主主義を受け入れ平和を誓った私たち。

戦後80年、節目の今日、映写活動が民主主義に繋がっていることの大切さを深く噛みしめたいと思います。フィルム映写の機会も少なくなっていますが、同じ目的を持つ仲間と共に活動を続けて行きたいと思っています。

### ●山形県・瀬野千恵子氏 「思い出がいっぱい」

私の住んでいる八幡町(現在は酒田市)は、山形県の日本海側に位置し、二つの小学校と一つの保育園と中学校、4つのコミセンがあり、「青沢獅子踊り」や「奴振り」「福山神楽」などの伝統行事や、63メートルの県内一の高さを誇る「玉簾の滝」がある自然豊かな所です。

この町で読み聞かせサークル「八幡よみきかせ隊」を立ち上げてから24年になりました。現在16名で、なんとか踏ん張っているとこです。手作りの紙芝居は全部で17作あり、おもに地域の伝統行事や、お年寄りから聞いた話を題材にしています。文章は庄内弁なので、子ども達には新鮮で、高齢の方々は親しみを感ずるようで、いつも喜んでもらっています。本選に迷った時の強い味方です。制作を通して、私たちが地域のことを知る機会にもなっています。



振り返れば、夏祭りでは自転車の荷台に紙芝居の舞台を括り付け、昔の紙芝居屋さんの雰囲気たっぷりに紙芝居をしたこと。全国自作視聴覚教材コンクールに応募した紙芝居が初めて入選し、その表彰式に会員数名で東京に行ったこと。コミセン事業で、絵本に出てくるホットケーキやおにぎりを作り、読み聞かせをしながら振る舞ったこと。20周年記念に制作した手作り紙芝居をまとめたDVDの発表会をしたことなど、楽しい思い出がいっぱいです。

コツコツと続けてきたことが、それなりに形になって、こうしてご褒美までいただくことができ、皆様に感謝いたします。



これからも私の背中を押してくれる会員とともに互いに助け合って、少しでも長く活動が続けられたらいいなと思っています。18作目の紙芝居作りを頑張ります。

### ●茨城県・軍司幹光氏 「再び事務局長に」

私は、大学時代は写真部に所属し、写真を撮りまくっていました。初めての印画紙現像のとき、徐々に現れてくる像に感動したことを今でもはっきりと覚えています。このころの経験がその後の視聴覚教育との関わりに大きな影響を与えたのだと思います。



教職に就いて、敬遠されがちな視聴覚主任が新採の私に回ってきました。当時としては新しいラジカセや8ミリカメラの導入も図りました。また、児童にも写真の楽しさを味わわせたいと思い、写真クラブを新設しました。

その後の勤務校でも、なぜかまずは視聴覚主任になりました。ビデオ編集や生放送を工夫した校内テレビ放送の充実に努めました。

茨大附属小勤務14年間には、県や郡市から講師助言者として招かれる機会もたびたびありました。また、毎年、年間20人ぐらいの教育実習生を指導してきました。この経験は、すべて自分を磨く勉強になりました。

その後、管理職を10年務め、定年退職し、茨城県学校長会事務局に5年間勤務しました。



茨城県教育研究会も兼務していたので、視聴覚教育に間接的に係わってきました。

茨城県視聴覚教育振興会事務局に勤務してから約5年間、社会教育に本格的に係わるようになりました。会長の下、例年行っている自作教材等発表会の計画・運営や、著作権の問題・ドローンによる空撮に関する指導者研修会等、講師を招いて実施してきました。

兄弟組織のNPOに呼ばれ、別の仕事をもったまま移籍したため、視聴覚には外部アドバイザーとして協力することになりました。

7年半を経て、再び事務局長に就任しました。現在は、デジタルアーキビスト育成のための補助金制度を設定、県内全域への普及活動に力を入れ、指導者の育成を図っています。

すでに後期高齢者ですが、体と脳が正常に動くうちは、このたびの名誉ある受賞に恥じないよう、事務局長の立場で視聴覚教育・情報教育のために尽力していくつもりです。

#### ●栃木県・坂井幸一氏

「お父さん、子供会で映画を映したいんだけど16ミリ映写機の資格を取ってくれない！」



これが、私が16ミリ映写機に係わるきっかけでした。もう30年前のことです。

当時も現在も宇都宮市立視聴覚ライブラリーでは、映画会実施の要望があればボランティアを派遣していますが、家内（当時子供会の会長）は、自前で映画会が出来るようにしたかったようです。それ以来「うつのみや映写ボランティアの会」に誘われ入会し、視聴覚ライブラリーの映画会のお手伝いや子供会／老人会などでの映画会を実施しています。なお、現在私が会長を務めております。

うつのみや映写ボランティアの会は、今年設立40年を迎えます。設立当時は、ようや

くビデオテープが普及し始めた頃でしたので、16ミリ映画も大いに人気を博していました。うつのみや映写ボランティアの会も、200名を越える会員を有していました。しかしながら、現在はDVD、ブルーレイやデータストリームで簡単に映画を見られるようになり、ボランティアの会の会員も40-50名程度に減少しており、高齢化も進んでいます。

視聴覚ライブラリーでは、年2回16ミリ映写機の技能講習会を実施しており、実技指導のお手伝いも行っております。現在で、10名～15名の方が受講されており、最後にうつのみや映写ボランティアの会も紹介させて頂き、その成果として毎年数名の新規入会があり何とか会を維持出来ています。

さて、16ミリフィルムや映写機ですが、取り扱いは簡単なようなのですが、ちょっと気難しいところがあり、毎回映画会をする際「今日も無事終わりますように」と言い聞かせて実施しています。最近では、液晶プロジェクターを使用したD



V作品などの映画会にも力をいれております。大きなスクリーンに映し出された映像や、スピーカーからの大音響は迫力があり、観客の皆様喜んで頂いております。同じ作品を鑑賞しても、テレビとは違った臨場感があります。

今後とも視聴覚事業の一助となれますように精進してまいりたいと思っております。この度はありがとうございました。

#### ●愛知県・豊田聡彦氏

「みんなたのしく」

現在、豊橋市教育委員会のGIGAサポートセンターに勤務しています。多岐にわたる業務で視聴覚教育に関わるものとして、年に数回の映像配信事業があります。



今年で4年目になるこの事業は、Microsoft Teams を利用して配信を行うものです。バスケットボール日本代表の高田真紀氏などの豊橋出身の著名人のお話、豊橋鬼祭に代表される地域の行事について、小中学生の不安に寄り添う、こども保健課の出前授業、豊橋港に関わって海事に携わる方のお話など、さまざまな内容で教室と出演者をつないでいます。

受け身になりやすい映像視聴ですから、スタジオからの配信だけでなく、豊橋自然史博物館や二川本陣資料館、地下資源館といった施設から臨場感のある配信を行い、子どもの興味を高めています。

さらに、質疑の時間を設けて出演者と子どもがやり取りすることや、教室にいる担任の先生に子



どもの意見を引き出してもらうなど、ICTの技術を使い、インタラクティブのよさを生かした配信となっています。子どもは発想や着眼点が面白く、あっという間に時間が過ぎてゆきます。配信に参加している子どもや出演者の楽し

そうな様子を見ていると、こちらもうれしい気持ちになります。

はじめて教壇に立ってから、いろいろな機会をいただいて視聴覚教育やICT教育に関わってきました。豊橋市内はもとより、全国の先生と交流できる機会もありました。産業総合研究所や京都大学の防災研究所などの研究施設にお願いして、教材作成のための映像をお借りしたこともあります。そうやって完成した迫力ある映像に子どもたちが真剣になる様子も思い出深いものです。細く長くではありますが、楽しく仕事をさせていただけることに感謝しております。

## ▽視聴覚教育・放送教育全国大会合同大会 サイトがオープン（11月28日・29日）

今年度の全国大会サイトが9月初旬に公開されました。全視連のHPにもアップし、二次案内も各加盟団体宛に発送いたしました。

今年度の大会は当連盟が生涯学習部会の担当として参加しておりませんが、小中学校の視聴覚教育の活用実践や、放送教育の活用実践、ワークショップ・セミナーなどがありますので、ご興味のある方はご参加いただければと思います。

大会サイト

<https://www.javea.or.jp/ave-hoso/2025/>

二次案内

<https://www.javea.or.jp/soutai/pdf/20250905-annai-2.pdf>



## ▽令和7年度 視聴覚センター・ライブラリーの円滑な継続的事業推進のために（提言） 構成案

### I. 全体の方針案

令和7年度末をもって当連盟の解散について先の理事会において承認された。発足以来の歩みを振り返り、これまで文部省などによって提言されてきた視聴覚センター・ライブラリーの在り方について再確認するとともに、長年にわたって全視連の調査研究事業で提案されてきた内容などをまとめることによって、解散後の視聴覚センター・ライブラリーが円滑に継続して事業を推進することができるような指針を示します。

- ・前段 これまでの視聴覚ライブラリー、全視連の歩みを振り返る
- ・今後の視聴覚センター・ライブラリーのあり方に関する提言

○県組織の在り方への提言

○県の視聴覚教育施設のあり方への提言

○市の視聴覚教育施設の在り方への提言

○視聴覚センター・ライブラリーのあるべき姿を踏まえたあり方への提言

昭和46年—文部省通達「視聴覚ライブラリーの充実整備について」／昭和58年—社会教育審議会教育放送分科会視聴覚ライブラリー等のあり方に関する小委員会報告「視聴覚ライブラリー及び視聴覚センターの整備充実について（中間報告）」等で示されたあるべき姿を踏まえて今後の視聴覚センター・ライブラリーのあり方を提言。

○提言のまとめ

### II. 視聴覚センター・ライブラリーの円滑な継続的事業推進のために（提言）構成案

はじめに

1. 視聴覚ライブラリーと全国視聴覚教育連盟（以下「全視連」）の歩み（創立50周年記

念誌（平成15年）を引用しつつ、その後の情報を加える）

- ①全視連の発足
- ②視聴覚ライブラリーの設置・充実に向けた動き
- ③全視連の発展
- ④視聴覚メディアの変遷
- ⑤全視連の転換期

2. 視聴覚ライブラリーに関する過去の通達や提言の振り返り

- ・昭和23年—文部次官発「連合軍司令部貸与の16耗発生映写機及び映画の受入について」
- ・昭和28年文—一部省社会教育局長通達「視聴覚教育の運営の当面の問題について」
- ・昭和46年—文部省通達「視聴覚ライブラリーの充実整備について」
- ・昭和58年—社会教育審議会教育放送分科会視聴覚ライブラリー等のあり方に関する小委員会報告「視聴覚ライブラリー及び視聴覚センターの整備充実について（中間報告）」

3. 視聴覚ライブラリーと全視連の現状

①視聴覚ライブラリーの減少

②全視連組織の現状

4. 全視連の活動休止

5. 今後の視聴覚センター・ライブラリーのあり方に関する提言

○県組織の在り方への提言 高橋委員 村上委員

○県の視聴覚教育施設のあり方への提言

○市の視聴覚教育施設の在り方への提言

○視聴覚センター・ライブラリーのあるべき姿を踏まえたあり方への提言

○提言のまとめ

---

## ▽えすけーぷ

先日、久々に新しくプリメインアンプとブックシェルフスピーカーを購入しました。スマホやパソコンで聴いているハイレゾ音源の音楽を鳴らすには環境が不足していたため、購入を考えました。

音楽配信でも気軽にハイレゾ音源ができるようになってきたため、対応したヘッドフォンやイヤフォンで聞いていましたが、部屋でスピーカーから聞くためでした。本格的な音響機器を購入するのは何十年ぶりでしたが、最近は需要が減ってきているためか、従来のオーディオメーカーで残っているのは限られており、中国製の製品の存在感が大きくなっていました。

検討の結果、以前にも使っていた日本のオーディオメーカーのプリメインアンプと米国メーカーのスピーカーにして、ハイレゾ音源の音楽を楽しんでします。

このプリメインアンプですが、入力音源をいくつも切り替えることができるため、パソコンからの入力だけでなく、休眠状態だったレコードプレーヤー、CDプレーヤー、そしてMDプレーヤーも接続してみました。

MDディスクは今年の2月に生産が終了したと報じられていましたが、再生機器はさらに前に製造が終了しています。録音したMDディスクが500枚ほど残っていたので、聴いてみようと思って接続しましたが、据え置き型の録音にも対応した機器は動かなかったものの、ポータブルプレーヤーは無事再生できたので、ハイレゾ音源の音質には到底及びませんが、懐かしく聴いています。

MDは音飛びや記録面の保護などCDの欠点を補うような位置づけでもあり、録音できる時間もCDに合わせていたこともあり、より長時間の音源を携帯できるMP3プレーヤーなどの台頭により普及せず、収束していったといわれています。

もう一点のMD規格の特徴として著作権保護の仕組みの強化があります。SCMS (Serial Copy Management System) といわれるデジタル録音時の著作権保護システムで、デジタルソースから1世代限りのデジタル録音を許可する仕組みで、コピーしたディスクからはデジタル録音ができないという仕様になっています。

著作権保護という面では優れた仕様だと思っていますが、使う側からすると、それまでのカセットテープやCDで音楽をコピーして聴くという使い方に制約があるという感覚になったのではないかと思います。著作権を保護したいという送り手にとって当然の思いと、自由に使いたいという受け手の希望の狭間の中で、著作権保護の仕組みが作られ、それを破ろうとする動きが出て、さらに保護を強めるという歴史の中で、様々な媒体が現れては消えてきました。MDもその消えた媒体の一つですが、視聴覚ライブラリーで扱う記録媒体も期間の違いはあれ、同じような運命にあるのでしょうか。

久々に眠っていたMDの音楽を聴きながら、音楽や映像の送り手と受け手の間にある著作権の課題ということを考えているこの頃です。

(T. M)

---

全国視聴覚教育連盟

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-10-11 虎ノ門 PF ビル

TEL : 03-3431-2186 / Fax : 03-3431-2192

HP : <http://www.zenshi.jp/>

Mail : [info@zenshi.jp](mailto:info@zenshi.jp)

---

# 東映 教育ソフト作品紹介

## 中学校高等学校防犯・道徳

### ティーンのためのSNS教室 ～いつも心に情報モラルを～

1巻 誹謗中傷・出会いの危険

2巻 迷惑動画・闇バイト ★令和7年度優秀映像教材選奨 優秀作品賞

1巻で「誹謗中傷」「SNSでの出会いの危険」、2巻で「迷惑動画」「闇バイト」という計4つのテーマを取り上げ、それぞれドラマ編と解説編で構成。トラブルに巻き込まれる生徒たちのドラマの事例から、どのようにしてトラブルを避けるのか考えさせ、生徒が情報モラルを身につけることをねらいとします。(1巻 約24分 2巻 約24分)

監修：一般社団法人スクールポリス理事 佐々木成三

日本語字幕付き

各巻 77,000円(税込)  
学校特別価格 38,500円(税込)

2巻セット価格 143,000円(税込)  
2巻セット学校特別価格 71,500円(税込)



## 道徳・平和教育

### おばあちゃんは認知症 ～お兄ちゃんからの手紙～

★令和7年度優秀映像教材選奨 最優秀作品賞(文部科学大臣賞)

認知症のおばあちゃん、部活動も勉強も上手いはず自分を見失っていた中学生の男の子とその家族、先の戦争で若くして亡くなったおばあちゃんの兄たちが登場する物語を通して、認知症の人との接し方・相手を思いやることの大切さ・命と平和の尊さを伝えます。(約15分)



日本語字幕・副音声版付き

77,000円(税込)  
学校特別価格 38,500円(税込)

## 中学校道徳

### 国際理解・国際貢献を考える ～台湾との絆～

★令和6年度優秀映像教材選奨 優秀作品賞

東日本大震災での支援や、新型コロナウイルスへの対策など、日本と台湾は困った時に協力し合ってきました。このような日本と台湾の絆を関係者のインタビューを交えて紹介し、国際理解・国際貢献について考えていきます。(約14分)



日本語字幕付き

77,000円(税込)  
学校特別価格 38,500円(税込)

## 小学校道徳・特別活動・防犯

### 小学生の情報モラル教室 スマホを正しく活用しよう!

1巻 学ぼう! スマホのトラブルを防ぐマナーとルール

★令和6年度優秀映像教材選奨 最優秀作品賞(文部科学大臣賞)

2巻 考えよう! スマホを使った上手なコミュニケーション

★令和6年度優秀映像教材選奨 優秀作品賞

1巻で「スマホと個人情報の守り方」「ネットの課金トラブル」「スマホ依存症」、2巻で「ネットいじめ」「SNSでの出会い」のテーマを取り上げ、それぞれドラマ編と解説編で構成。子供たちに、ドラマの中の出来事を自分だったらどうするかと考えさせ、トラブルにつながる行動の自覚を促し、正しい判断力が育成されることを狙いとします。(1巻 約24分 2巻 約23分)

監修：常葉大学教育学部准教授 酒井郷平

各巻 77,000円(税込)  
学校特別価格 38,500円(税込)

2巻セット価格 143,000円(税込)  
2巻セット学校特別価格 71,500円(税込)



●お問い合わせ・チラシ請求は

**東映株式会社 コンテンツ営業部 教育映像室**  
〒104-8108 東京都中央区京橋 2-2-1 京橋エドグラン  
TEL.03-6852-0678 FAX.03-6852-0680  
予告編配信用 <https://www.toei.co.jp/entertainment/education/index.html>



他にも幅広い商品ラインナップを取り揃えております!

**ドラスタ**  
DRAMATIC STUDY

心に残る学びを。東映が贈る研修動画



<http://www.toei.co.jp/edu/>